

## 2 年下

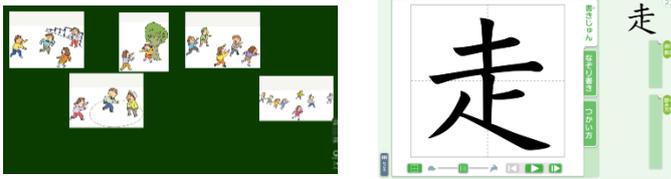
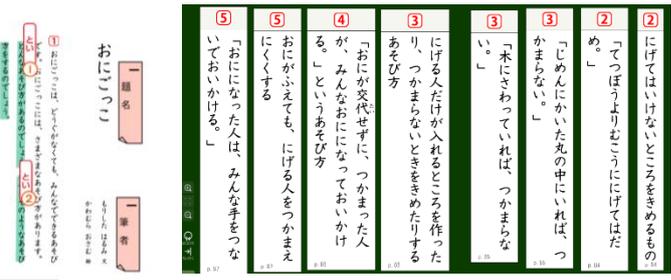
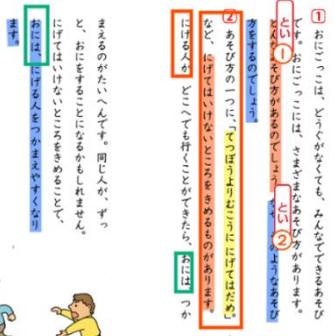
# おにごっこ

小樽市立山の手小学校 山本 宗明

### 単元の特徴(ねらい)とデジタル教科書の活用について

本単元では、重要な語や文を見つけて読み進め、説明の仕方を学ぶことで、「遊びのよさ」をより上手に文章にまとめることができるようになることを目指す。「問い」と「答え」の対応を、色を分けて提示することで、文章構造を視覚化させやすいと考える。また、児童の考えを本文から「マイ黒板」に抜き出す作業が容易にできるため、思考の過程を視覚的に捉えることができる。

### 指導計画例 (全 12 時間)

学習活動 指導事項/留意点	デジタル教科書活用ポイント
<p>① 単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの遊びや知っているおにごっこについて話し合う。</li> <li>・単元のめあてを設定し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・新出漢字の確認</li> </ul>	<p>・「さしえ」の並び替えで、大まかな流れを確認する。</p>  <p>・新出漢字の確認や、「かん字フラッシュカード」で基礎の定着をはかる。</p>
<p>② 紹介したい「遊び」を決め、説明の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介したい「遊び」を資料から選び、説明の仕方を考える。</li> <li>・うまく書けない部分に気づき、学習の必要性を感じる。</li> </ul>	
<p>③ 「問いの文」を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を読み、いくつのおにごっこが紹介されているか考える。</li> <li>・個人によって数え方や、注目しているポイントが違うので、次時以降詳しく読んでいくようにする。</li> <li>・「遊び方のおもしろさ」は、みんなが楽しめるための「わけ」や、楽しさの内容であることを確認する。</li> </ul>	<p>・「問いの文」に「せん」で色をつけて、視覚的に分かりやすくする。</p>  <p>・本文から「マイ黒板」に抜き出すことで、叙述をもとに考えることを視覚的に学習させる。</p>
<p>④ 第 2 段落から「遊び方」と「おもしろさ (わけ)」をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問いの文」に対応する「答え」を探していく。</li> <li>・中心となる言葉や、繰り返し出てくる言葉、接続詞にも注目する。</li> <li>・前時の「いくつのおにごっこが紹介されているか。」を解決する過程で、具体的なものと抽象的なものに分類するようにする。</li> </ul>	<p>・教科書画面に色分けして線を引く。</p> <p>※「問いの文」と「答え」の色を対応させる。</p> 
<p>⑤ 第 3 段落から「遊び方」と「おもしろさ (わけ)」をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時と同様の学習の流れで行う。</li> </ul>	



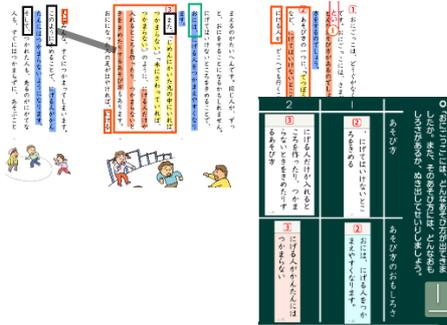
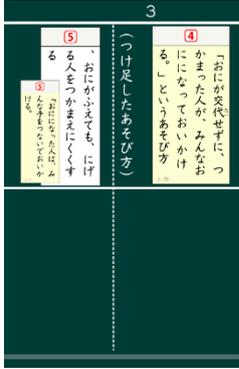
★6時の指導案

【本時のめあて】

文章中の重要な語や文を考えて選び出し、遊び方とおもしろさについてまとめることができる。

【評価】

第4段落と第5段落に書かれている文章から重要な語句や文を考えて選び、遊び方とおもしろさをまとめている。

学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価	デジタル教科書の活用例 (数字は学習活動の番号)
<p>導入</p> <p>①前時までの学習を振り返る。</p> <p>②第4・5段落の朗読を聞きながら音読をする。</p>	<p>◇第1段落から第3段落までの「問いの文」や「答えの文」、「マイ黒板」に整理してきたものをもとに、本時の学習の見通しをもたせる。</p> <p>◇朗読を聞かせながら机間指導し、全員が正しく音読できているかを確認する。</p> <p>◇第4段落のはじめの「ほかに」という言葉の意味を確認する。</p>	<p>前時までのシート、「マイ黒板」の確認 (①)</p> 
<p>展開</p> <p>③第4・5段落に「遊び方」がいくつか紹介されているか話し合う。</p> <p>④第4段落の「おもしろさ(わけ)」を確認し、表にまとめる。</p>	<p>◇「問いの文」に対応する「遊び方」について教科書に線を引かせ、交流させた後、全員で確認する。</p> <p>◇「問いの文」に対応する「おもしろさ(わけ)」について教科書に線を引かせ、交流させた後、全員で確認する。</p> <p>主語を確認したり、補ったりしながら考えさせ、第4段落には「にげる人」、「おに」の双方にとってのおもしろさがあることを確認する。「ふせん」の色を変え、表にまとめることによって、第2・3段落とのつながりを考えさせる。</p>	<p>マイ黒板を使い、児童の答えをすべて抜き出した後、具体と抽象を整理する。「ふせん」の色分けも効果的に活用する。</p> <p>(③)</p>  

<p>⑤第4段落と第5段落の関係を確認する。</p> <p>⑥第5段落の「おもしろさ(わけ)」を確認し、表にまとめる。</p>	<p>◇「ところが」「そこで」という言葉に注目させ、説明の順序や、段落のつながりに気づけるようにする。</p> <p>◇「問いの文」に対応する「おもしろさ(わけ)」について教科書に線を引かせ、交流させた後、全員で確認する。</p> <p>第5段落も双方にとっての「おもしろさ」が加わることに気づかせる。</p> <p>全文の抜き出しにならないよう、必要な語や文を意識して抜き出すようにする。</p> <p>◆重要な語や文を考えて、表にまとめている。</p>	 <p>⑤「おもしろくないわけは、みんなの手をのべてあげられる。ときめるのです。」</p> <p>児童の答えはすべて抜き出し、「マイ黒板」で整理する。(④⑥)</p>
<p>まとめ</p> <p>⑦本時の学習を振り返る。</p>	<p>◇本文と「マイ黒板」、自分でまとめた表を見て、本時の学習で学んだことを発表する。</p>	<p>児童の振り返りや学びの発表に合わせて画面を拡大し、全員で共有する。</p> 